Osaka University Knowledge Archive

Title	第43回日本公衆衛生学会総会楽屋咄
Author(s)	久保田, 勝己; 中山, 芳樹; 勝田, 芳隆 他
Citation	大阪公衆衛生. 1985, 49, p. 28-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83958
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

第43回日本公衆衛生学会総会楽屋咄（ばなし）

示説会場長
久保田　勝　己
元大阪府衛生部地域保健課

第１会場長
中　山　芳　樹
大阪市環境保健局庶務課

第２会場長
勝　田　芳　隆
大阪市環境保健局保健管理課

第３会場長
永　橋　光　二
元大阪府衛生部地域保健課

第４会場長
中　島　康　夫
大阪市環境保健局庶務課

第５会場長
川　崎　忠　男
堺市環境保健局衛生部衛生総務課

第６会場長
金　谷　正　則
東大阪市保健衛生部保健衛生総務課

事務局職員
平　野　祐美子

司　会
伊　藤　　龍
(財)大阪公衆衛生協会事務局長

学会総会開催の経緯

司会　昨年10月31日から11月２日まで、第43回日本公衆衛生学会総会を開催して、約4000人の方々に全国から集まっていただいたわけですが、大阪で開催することが決定して、準備段階から学会総会当のの運営まで、本日お集まりいただいた皆様方が、会場長として御活躍いただいたということで、その時の裏話や苦労話をざっくばらんによろしくお聞かせ願いたいと思います。

久保田　まず、大阪で開催するに至った経緯から話しますと、数年来からそういう話はあったんですが、たまさか58年に近畿の学会を府が担当した経緯からも府が引き受けることになったんじゃないか。また、前杉山衛生部長の時からそういう動きがありました。その後、58年６月頃部長のもとへ学会本部の須川理事長が来られて、大阪で学会を開催してはどうかという話がありました。その時は北田部長も、政令市や大学の先生方とも相談の必要があるので検討させて欲しいということで話をおいたようです。そして、どこが中心と

なって検討するのかという点で、公衆衛生学会ということから、近畿の学会を経験している公衆衛生課（現地域保健課）の矢内課長へ特命事項として話があり、それが我々担当者レベルまで降りてきたわけです。

そして、部長や矢内課長と話を進めた中で、大阪で引き受けるかということを、また、どういう形で引き受けるかを考える場合、公衆衛生学会という性格から、在阪大学の公衆衛生学の先生方の御意見を聞かないといけない。当然、府、政令市の行政レベルの人も入って、どういう形で進めるのか決めておかないといけない。それと併せて、大阪出身の公衆衛生学会の会員で、かつ評議員になっている方々の意見も聞こうということで、根回し的な会をもとうということになりました。そして、7月に在阪の先生方に集まっていただいたり、また、学会の評議員の方に集まっていただいたりして、意見を拝聴しました。

「大阪方式」の検討

また、大阪が引き受けるならどうしたらよいかということも、併せて考えておかなければいけないということになり、大阪なりの学会というものを進めるにはどうしたらいいのかということで議論になったのは、矢内課長の発案で、街頭演説的な、あっちこっちで演者が立ってワイワイガヤガヤ発表していて、あの話が聞きたいと思ったらそこへ行くというような方式はどうか。口演一辺倒でやるんではなしに、発表者と直接話ができる、聞けるというような方法もとるべきではないかという話もできました。そうして、在阪の先生方の意見を聞きつつ出て来たのが「示説」という方法です。矢内発案とは若干違ったけれども、「示説」いわゆる「壁発表方式」も一つの方法であるということで、そうした場合にどうなるか考えました。

そういう方法論を考える中で、もう一つ学会の理事長から、今後の日本公衆衛生学会がいずれの都市においてもできるように大阪でも検討して欲しいという課題が与えられていました。第42回に、本部が主体となって神奈川県でやられた学会が、どこの都市でもできる学会ということで、まず手掛けられたといいうことを聞いており、それを受けて大阪でもということでしたが、第42回は、全面委託方式で、従来のように全て行政が学会を運営しているのではなく、学会を学会の会員によって運営できないか、そのためにはやはり、人手等の確保の関係からすると、学会の開催業者というようなものに全面委託したほうがよいということで、第42回は全面委託方式でやられたようです。

大阪の場合も、全面委託にするのか、その辺の議論も併せて、まずどこの都市でも行なえるということを考えると、経費の問題が出てくる。もう一つは会場の問題。数多くの会場がどこの都市にもあるわけではないし、会場数を減らす方法を考えるべきではないかということもある。また、当然運営としては、従来から行われてきた、行政が主体ではなく、公衆衛生学会というものを学者なり、民間なりの行政から離れた組織で行うべきではないかという3つくらいの点にしぼって、どこの都市でも開催できるようなものを考えようということが、大阪開催の一つのテーマであったわけです。そうしたこともふまえて、在阪の先生方に意見を聞くというふうなことで進めて行きました。

先に話したように、会場数をいかに少なくするかという点では、示説方式がよいのではないか、また、開催を行政主体から、民間レベルのものに変えるとすれば、事務局を別の組織により運営し、経費的な面は、経営努力でまかなうということで意見も煮詰まり、大阪でやろうとまとまりました。

そして、58年の横浜の学会においては、学会長までは選出できなかったけれども、一応

大阪での開催を後の理事会に一任するということで、総会で承認されました。それ以後は、学会長をどなたにするか、事務局をどこに持っていくかということを詰めていきました。我々行政の人間と大学の先生方との間で詰めていく関係からすると、大阪には府、3政令市それから大学関係の先生方等公衆衛生に従事する者の集まる団体である、大阪公衆衛生協会がある。そこに事務局をお願いしてはどうか。また、お願いする限りは、その組織で運営するということで、学会長には大阪公衆衛生協会の会長をあててはどうか。副学会長も協会の副会長をあてればいいのではないか。

以上のような意見にまとまり、大阪公衆衛生協会の常務理事会にはかり、また、理事会にはかり、御承認をいただいて、学会における会長が決定しました。これを受けて、59年1月の学会の理事会において了承され、以後数回にわたり、運営を進める上での組織づくりをどうするか詰めていきました。

そして、学会の運営協議会なり実行委員会なり、委員の先生方の選出をどうするかということを59年の1月から2月の短期間で決めていき、後は、開催までに細かい詰めをしていきました。以上が、大阪で学会を開催するにいたった経緯です。

民間主導の「大阪方式」

司会　いよいよ大阪でやるということが決定した段階で、関係者の方々に横浜の学会に行っていただいたわけですが、それをおおいに参考にして大阪でのやり方を具体的に検討されたことと思いますが。

久保田　受ける段階になって、大阪流の開催をしようということになったが、まず日本公衆衛生学会とはどういうものなのかが全然つかめなかったので、以前に府で開催した近畿の学会、これを大きくしたものかと思っていました。ところが驚いたことに付随行事がけっこうあって、例えば、全国衛生部長会・保健所長会など9～10の付随行事が付いてくる。大変な行事である。これがあるからどこの都市でも二の足を踏むんだと思いました。そこで、一体どんな行事があるのかということを聞こうと、第41回の福岡県へ問い合わせたら、担当者が全部変わっていて福岡方式がつかめなかった。第42回の横浜は、県が受けたのではなく、学会自身が受けたので、参考にしにくい。聞く相手がいない。事務的な細かい点は分かっても、運営方法をどうしていくかが分からない。まして、過去に行政主導ではなく、民間主導で世話をしたことがあったか捜したが見つからない。過去は全て県の中に事務局を置いてやっていることから、大阪において民間で事務局を運営する場合の参考にできるものが何もなかったということが非常に不安でした。

しかし、事務局となった大阪公衆衛生協会が、以前から大学の先生方とのつなぎの役目を果たしていただいていた関係から、先生方とのつきあいがスムーズにいったということでは助かった面があり、大阪での学会開催が、他でやられた学会とはちょっと違う点だと思います。

司会　今言われたように、事務局を大阪公衆衛生協会に置きましたので、大学の先生方は既に協会の役員さんで従来からつながりがありましたから、非常に助かったんではないかと思います。

そして、そこからいろいろな業務を進めていったわけですが、その中で全くの裏方さんの裏方さんをやっていただいた永橋さんに、どんなことで一番苦労されたか伺いたいのですが。

裏方としての苦労

永橋　まず、学会とは何をするのか分からなかったんですね。総会が、分科会が、付随行

事が、そして自由集会が、それぞれ何をどうするのか、抄録はどのように作成するのかなど、何も知らないまま横浜の第43回学会総会を見に行ったにもかかわらず学会のイメージすらつかめなかったんです。しかし、開催まで約一年ですから会場の確保だけは急務だと聞きましたので、取り合えず、会場捜しに大阪市内を歩き回ったんですが、「申し込みは、2か月前からで、来年のことを今から約束は出来ません」とか、「6か月前から受付しますす」などと言われ、会場確保一つにしても思うようには進みませんでした。

また、中身（プログラム）が決まっていないので会場数が分からない、無やみやたらと予約をしても中身が決定した時点でキャンセル料を取られるかもしれない等で支出額がつかめない、参加人数がつかめないので収入額がつかめないでは、予算書を書くこともできない、ないないずくしのまま、いわゆる「どんぶり勘定」でスタートしたんです。それでも、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市の分担金を要求するのに予算書が必要でしたから、福岡あるいは名古屋のものを参考にして作ったのですが、実際のところ補正の繰り返しでした。たまたま、若干の黒字が出たからよかったのですが、これは野球と一緒であくまでやってみないと分からない。だから、接待だといって夜飲み歩いた分まで払わされたらかなわんと思いましたね。それに、各付随行事の懇親会をこちらの案にそわないということで経費負担しなかったのですが、もしこちらの案で実施して、その経費を負担していれば当然パンクしていただろうと思います。

司会　一番肝心なことですね。もし、赤字が出た場合に誰が補塡するかということになると大きな問題ですね。張先生が、久保田係長を「鬼軍曹」と言われたように、学会の打ち合わせで6時、7時になっても一切お茶しか出さなかったですからね。

久保田　公衆衛生学会というのは、行政主導でやらざるをえない面もあります。というのは、横浜のときでも大阪の場合でも学会に参加するメンバーのほとんどが行政の人間である。保健所や研究所などに勤めている人がほとんどで、あと大学の研究生という程度でどうしても行政に勤めている人間の研究発表の場になってしまいますね。だから、行政が主で大学に助けていただく形にならざるをえないと思います。

司会　医学関係なら、協賛するところもあっちこっちからたくさんあるが、これがないと金策の面で大変だったんではないでしょうか。

久保田　行政が事務局となってやるからおおっぴらに出せないし、協賛・援助金として受けることができない。しかし、大阪の場合、民間主導でやったから広告まで出せたけれど、事務局も府というようなはっきりした位置付けでやっていたら、広告そのものもだめだったでしょう。

司会　府の立場はお聞きしましたが、大阪市のほうで記憶に残っていることは。

中山　実際に関与したのは、大阪府の職員会館でやった打ち合わせ会議からでしたが、すごく寒かったのと、腹はへるのに食べ物はないし、お茶一杯しか出なかったことを思い出しますね。（笑）

司会　開催の日を決めてから、行事の順番をどうするかが議論になったようですが。

中山　総会を前にもっていくか後にもっていくか、人をいかに集めるかで議論となり、総会がメインなのだが、「後にしたら皆帰ってしまうで」とか、「前にしたら来んやろか」とかという意見が出ていました。

久保田　真ん中に総会をもってくると分科会会場が1日飛んでしまうので、経費面でも配線なんかの関係でも都合が悪い。結局そういうことで、総会を一番初めにして、それから分科会という順番に落ち着きました。また、初めは分科会の会場を市内あちらこちらに分散して、と考えていましたが、先生方の意見

が、多少狭くてもいいから2、3分で移動できるところを考えた方がいいということから、全部キャンセルして、もう一度会場を捜しましたね。

演題の募集から抄録集の発送まで

司会　学会開催までの手続き事務で何が一番苦労しましたか。

久保田　一番大変だったのは演題の募集で、募集期日を決めているのにその期日を守ってくれない。また、抄録の原稿そのものも期日までに集まらない。これは当り前のことですけれど募集の期日はきっちり守ってもらいたい。そうでないと事務局として仕事が前に進まないでイライラするばかりなんです。

永橋　期日を守ってくれたのは5割。あとの5割は何らかのかたちで期日に遅れました。要領のいいのは、電話で何題申し込むから枠だけとっておいてくれと、あとの詳細な資料は全然ないわけで、こちらとしては次に進めることができませんでした。また、締め切り日の前後3日くらいになるとどさっと申し込みが来るんです。ですから平野さんに演題を書き並べてもらったときに、最初の頃は暇そうにやってたんですが、期日が近づくにつれてだんだん顔色が変わってきましたね。締め切り日をはさんで4、5日が一番しんどかったんと違うかな、平野さんは。

平野　そうですね。10や20と違う、50も60もいっぺんに来る。だんだん手はいたくなるし、悲壮でしたね。決死の覚悟というか、期限におくれないようにとか思って。だから、ずいぶん後になって送ってくる人なんかがいて、腹がたちましたね。だいたい演題を送って来た方の名前とか所属なんか覚えてしまいましたね。総会の当日に受付で知っている名前を見つけて、あ、この人こんな顔だったのかと感心したりして。（笑）

永橋　これまでの学会なら、演題だけを申し込んでおいて、内容はあとで考えることができましたが、今回の大阪の場合は、申し込みの葉書に内容の要約を200字程度のもので書いてもらいましたので内容が固まっていないと申し込むことができない。にもかかわらず申し込んで来る。

期日を守った人は、自分は所定の手続きをしてもらえるという安心感があるわけですね。ところが期日に遅れた人は、葉書が着くか着かんかの間に、「自分のは採用されましたか」というような問合わせが殺到したんです。自分が期日に遅れていることがわかっていますからね。それがその時点で一番困ったことで、1か月近くズルズルと遅れていった原因はそこにあったと思います。

司会　大阪府下の人はどうでしたか。

永橋　駆け込みは多かったんですがまあまあというところです。ただ、大阪の人で葉書でなくて別の紙で申し込んでくる人がいたんです。そうすると数が数だけにわからんようになるんです。やはり所定の用紙に書くということを守って欲しいですね。

久保田　基本論が分かっていなくて、「日本公衆衛生学会の会員でないと発表できないのはなんでや」と大分食い下がってきた人もいました。日本公衆衛生学会がどういうものであるかという認識不足がありますね。日本公衆衛生学会というのは単なる発表の場で、自分たちがこの会を育てていくという意識が欠けているようですね。これを読まれて、いやしくも大阪公衆衛生協会の会員たるものが学会に参加するときは、「決められたルールくらいは守ったろか」と。「大阪では苦労しはってんな」ということが分かってもらえたらいいんじゃないかと思いますね。

司会　会費を払わなかった人なんかはいませんでしたか。

永橋　あったあった。それで、督促を山ほどしました。

川崎　督促して払ってくれましたか。

永橋　最終的には全員払ってくれました。地元の人は意外に金の払いがものすごくあとになるんです。

司会　抄録関係ではどうでしたか。

久保田　いいかげんな原稿もありました。これは下書きかいなというのがあって、失礼やけれども発表者に問合わせをしないとしょうがないし。

金谷　そういうのはどう処理したんですか。

永橋　原稿のまま写真製版するからということでもう１度書き直してもらいました。募集要綱には写真製版することは説明してあったのですが、それでも、原稿さえ出せばタイプ印刷してもらえると思っている人が多かった。

それからワープロ打ちの原稿があったんですが、原稿のときはきれいなのですが、写真にとって縮小をかけると見にくくなるんです。今のワープロの性能では使用しない方がいいですね。

久保田　それから応募してきた原稿を、「学会員個人の資格として発表する」という学会の趣旨に照らしてチェックしていきました。何々保健所とか何々会一同とか趣旨に合わないものを全部削った。

永橋　私は申し込み者が学会員であるかどうか確認するために東京の学会事務局まで出向きました。そこでチェックして学会員でない人の名前を消していったんですが、連絡ミスか何かで、いざ本ができてしまってから、「おれは学会員やのに名前を削られた」というのがあって。それでおわびをしまして。

川崎　あれだけの数をいちいちチェックするのはおそろしい作業ですね。

中島　東京の学会本部では会員名簿とかをきちっとそろえてないのですか。

永橋　カード式の名簿があるんです。

川崎　１年限りの会員というのも多いんですか。

久保田　ほとんどがそうじゃないですか。発表のために会員になるといった。おそらくそういう人は名簿にのってないんじゃないかな。

永橋　大阪のときで会員数が5000名を越したそうです。その前の横浜のときで4000名程度。毎年何百という単位で変動するそうです。それで、固定した会員が3000名くらいしかないでしょ。大都市圏でやるとドーンと増える。学会本部も毎年収入が上下するので予算がたてられないと嘆いています。

久保田　それから、これも学会の趣旨として、一人１演題に限るというのがあり、これは運営上のことよりも、会員の平等性を確保する趣旨だと思うんですが、同じ人がダブッているケースがありまして、それをいちいちチェックしていく作業も大変でした。

中島　内容が連続している２つの演題が一方は口演、一方は示説に分かれたケースもありましたね。

永橋　出した本人は２つの演題が同じ内容のものと思っているんですが、分科会の先生は「これは別々だからこれはこっち、これはあっちの分科会」と分けられたんで、演題名集を印刷した時点で発表者から「えらい分かれてるやないか」とクレームがついて。「あんまり関連性がありませんので」と返答したら「あんたらに分かるか」ということでえらい怒られました。

久保田　発表の順番でもそういうことがありましたね。この発表を先にしないと後の発表が生きてこないと。当日そう言われて座長さんに振り替えてもらいました。そんなことまでこちらでは分からないですからね。

金谷　そういった発表の順番はあらかじめ分科会担当の先生方が調整してるんじゃないんですか。

久保田　順番は実行委員の先生方に割りふっていただいたんです。

永橋　ですから、分科会の実行委員の先生方はプログラム委員会のメンバーになるわけで、そのプログラム委員会はものすごく権威があるはずなのに、そこで出した結論を納得して

もらえない。

中島　何か事務局で勝手に順番をつけたように思っている。（笑）

久保田　大阪で助かったのは、いろいろ問題が起こったとき先生方が電話で説明されて、発表者も納得するということで、これは大阪ならではの特長でしょうね。大阪だからこそそういう形がとれたのであって、そうできない府県では全て事務局で対処すべき仕事だったのかもしれませんね。

永橋　本来なら、東京の学会本部で固定したプログラム委員会を設けて、どこでやろうと演題が集まった時点でその委員会で結論を出す。その結論には一切クレームをつけられない。そういう形にすべきだと思います。

中島　その方が一貫性がありますね。選考の仕方や割りふり方が年によって変わるということもなくなるし。

司会　抄録集の発送も大変だったですね。

中島　予定では１日で済むことになっていたんですがなかなか手間がかかり２日かかりました。

永橋　今回は印刷屋さんに大分儲けさせましたが、発送の作業の場所を提供してもらったのは助かりました。印刷代の中に場所代も入ってるのと違うかな。

中島　作業的にはけっこう場所をとりますのでね。それと、発送で大変だったのは、発送先の保健所なりが一体どこの府県にあるのかがなかなか分かりにくくて。

永橋　発送してトラブルが２、３件あったのは、確かに発送したのに向こうに届いていない、また、こちらにも戻っていない。しかたがないのでもう一度送りなおしたというのがありました。

久保田　そういうこともあって、抄録集は一切当日販売にして、事前受付はしない、ということにしたらどうかな。その方が手間も省けるし、発送料などもいらないし。

中島　でも、当日までに前もって手元に欲しいという気持ちはあると思います。勉強熱心な方は、事前に目を通して勉強しておきたいでしょう。

会　場　の　準　備

司会　次に総会の準備の段階に移ります。何か裏話でも。

永橋　舞台の配置図とか客席の配置図をもらってきて場面が変わるたびに舞台はこうなると、山ほど書きました。舞台の配置図だけで20枚ほどありましたね。それを毎日毎日書き直して。情けなかったよ。（笑）

久保田　委託でどこかのテレビ局の裏方さんに頼んだほうがよかったかな。こういうことをやるから組立てを考えてくれと。テレビ局なんかきっちりやってるし、頼んだらやってくれるよ。

永橋　今から考えたら、前日丸１日会場を押えて、朝にセットして昼からリハーサルをやるべきだったと思います。

金谷　永橋さんの書いた配置図でもリハーサルをして修正したら、きっちりとした絵になったでしょうからね。

久保田　ぎょうぎょうしく集まって、シナリオのどこで電気をつけて、どこでスクリーンを下してと、そこまできっちりする必要があるのかなと思うくらい下打ち合わせをしたんですが、ぎょうぎょうしくした割りに当日は時間はずれこんでくるし、予定どおりいきませんでしたね。面くらったのは、当日行って看板の字が間違っていて。

永橋　分科会の方の看板は確認したけれど総会の方は確認しなかった。

中島　控え室もけっこうたくさん押さえたけれどあまり使いませんでしたね。

永橋　２階の端を来賓室に使ったくらいです。

総　会　当　日

司会　それでは、総会当日の様子をどうぞ。

久保田　総会はやっぱり総会だなあと思いましたね。玄関開けるときにズラーッと並んではった。あんなに集まるものとは思わなかった。

中島　始めのうちはパラパラだと思っていたのに。

久保田　私らが行ったとき、もう、ごっつい鞄さげて来てはったもの。規定の時間がくるまでは、私らも入れさせてくれないのに。予約が少なかったから、当日参加の人が並んでいたのかなあ。

川崎　満員でたまげましたね。立ってる人はいるわ、ロビーは一杯やわで。2階も3階も全部うまってましたもんね。

勝田　私、受付でおこられましたわ。「一杯で入られへん。本返すから金返せ」って。(笑)

永橋　一杯にならないと思っていたのになあ。

川崎　皆がそう言ってたから一杯になったんや。(笑)

永橋　こうしてみると、大阪は街としては大きいけれど、こうした施設は少ないですね。この間新装されたインテックス大阪に行ったんですが、こういうところでバサーッと示説をしたら気持ちいいやろなと思いましたね。

中島　ちょっと交通の便が悪いですよ、あそこは。

司会　どうしてあれだけ当日参加者が多かったんでしょうか。

久保田　やっぱり地の利じゃないかな。

永橋　それと、やはり梅棹先生の人気があったようです。普段、ああいった先生のお話を聞く機会がないから。梅棹先生の講演はあまり公衆衛生との関連性はないでしょ。私はむしろそれでよかったんじゃないかと思います。午後のフォーラムは公衆衛生一色にしたんだから、極端な話、午前中はやすしきよしの漫才でもいいんじゃないかと思いますね。

久保田　梅棹先生というのは、講演の当日になるまで話の内容をまとめられないくらいお忙しい方で、だから当日配付したような抄録を作ってくださいといっても、本来なら作ってもらえないんです。それで、どうしたらいいだろうということで、民博の事務局長さんに面会の場を作ってもらい、張先生に話題を提供していただき、それに応じて話をしていただいたものをまとめて、それを事務局長さんの承認をもらって、初めて抄録にのせることができたんです。

司会　総会に出られなかった人は、大阪公衆衛生協会でまとめた「第43回日本公衆衛生学会ダイジェスト」を買っていただければ梅棹先生のお話の内容も詳しく分かると思います。

総会フォーラム

久保田　フォーラムは中途半端に終わったのが残念でした。言い足りない人もいたのではないかと思います。しかし、あれでもかなり時間が食い込んでいました。前回の横浜の学会の成果を受けて、流れを考えてやりました。意気込みはよかったんですが、あまりに内容が豊富すぎて中途半端になってしまったんですね。1部、2部、3部の構成はよかったんですが。

中島　フォーラムはリハーサルをしてみてうまいこといくのかなと思っていましたが、実際やってみて心配したほどではなかったですね。

久保田　舞台裏にいてたのでスライドの写り具合なんか分からなかったんですがどうでしたか。

中島　わたしも舞台裏にいてたので。

司会　実際、裏方さんは誰も見てないのとちがいますか。

中島　司会者が誰になるか間際まで決まらなかったけれど、張先生がうまくやられましたね。押しボタン式のアンケートマシンはおもしろかったですね。数がしっくりいかなかったけど。

久保田　あれは、張先生の司会の妙でおもし

ろかった。

中島　確か選択枝が1，2とあって、1と2を選んだ人をたしても元の母数に足りなかったんですね。

司会　抄録集の表紙の裏表を使って、会場からアンケートをとった試みは。

中島　会場からの参加というのは、ちょっとしたアイデアですね。ただ座って聞いているだけ、というより。

川崎　抄録をもらった人は、真っ赤な裏表紙を見て驚いたでしょうね。

永橋　もらったほうは全然意味が分からんから「何で赤いんや」と思ってたでしょうね。

久保田　その説明を張先生がされて「ああ、なるほどな」と皆さん納得していた。

司会　最後のボツリヌス中毒の特別報告は、大阪市環境保健局長の保川先生に座長を務めていただきましたが、演者が遅れてハラハラしましたね。お客さんは帰ってしまうし。

中島　まあ、それまでが超満員だったですからね。それと比べると寂しく感じただけで。あの時間であれだけの入りだったら、成功だとおもいます。ただ、演題そのものが、保健婦が聞いてどうのというものでなかったので。

分科会会場 ―示　説―

司会　分科会の方はどうでした。

永橋　示説が一番大変だったでしょう。

久保田　示説はこまごましたことが大変でした。示説にした関係で顕微鏡を置いたり電気装置を使いたいという人がいた場合配線の関係上壁ぎわの電源から引っ張ってくるしかないし、経費の面でも高くつくし。それと衝立が、もっとベニヤでしっかりしたものだと思っていたのに、押さえたら向こうにひっくり返りそうなものだったのは意外でした。まあ値段も値段だったんですが。

金谷　寸法も最初予定していたものと違っていたんじゃなかったですか。

中島　会場はイスを入れていくと思ったより手狭になりましたね。図で見たときはこれはきっちりいくと思ったんですが。図で見て余裕がありすぎるかなあというくらいの方が実際やってみてちょうど適当なのかもしれませんね。

久保田　反省になりますが、1スパンづつ離した方がよかったかもしれませんね。もっとも、あれだけ人が入るとは思ってなかったけれど。

永橋　1スパン離すわ皆目人が入れへんわでは寒いですわ。かぜひきますよ。（笑）

久保田　示説は会場に備えつける消耗品が結構いりました。押しピンでも、簡単に取りはずしできるように、画びょうでなしにつまみの付いた上等なものにするとか、セロテープも用意せなあかん。セロテープだったら落ちるかもしれんということでガムテープを買った。当日訂正があるだろうから訂正用の紙とかマジックとかも、置いてやらないかん。それと、実行委員の先生の意見ですが、発表者がおられないときに質問があったらいかん、ということで質問票を作ったりして結構手間暇かけてやった割りに実際使ったのは押しピンくらいで、あとは全部そのまま残ってたり、逆に押しピンはカラーの結構きれいなものだったんで、持って帰る人がたくさんいて、またあとで買い足したりしました。

永橋　示説会場の消耗品だけで50万円以上かかりました。

中島　経費の節減にはなりませんね。示説方式を採用したのは、一つには経費を押さえられるんではないかということもあったんですが、終わってみるとかえって……。

久保田　しかし、示説を採用していなかったら、半数が示説だったから、あと6会場ふやして12会場用意する必要がある。すごい会場数になりますよ。

永橋　それだとあの通り（土佐堀通）の会場だけではすみませんね。

久保田　示説の場合造作費は高くつくとは思っていましたが、消耗品費があれだけかかるとは思っていませんでした。壁さえ作っておいたらと。

金谷　あとの小道具は発表者が皆持ってくるやろと。

中島　甘い考えや。(笑)

川崎　なにしろ初めての試みだから発表者もそこまでは考えないでしょう。

久保田　示説会場も、他の会場同様人があふれていたけれどその割りには、マンツーマンで話をしていたりして、話し合いの場ができていたので、よかったなあと思いました。どこの報道だったか、テレビカメラが入って来まして、示説の場で、発表者が立って、それに対してこっちで質問しているという雰囲気的なものを撮っていたみたいです。示説会場では平野さんたちにあとから感想を聞いてもらったんです。若い美男子をねらって回っていたみたいでしたけれど。(笑)

平野　いえいえ。地方から来た人を中心に聞いたんです。やはり、会場が狭いというのが悪評でした。でも、評判は、概ねよくって、発表者との意見交換ができてよかったし、各会場が近いのもよかったということです。

勝田　私は、うち（大阪市）の保健所から発表する人たちのお世話を少ししたんですが、地元は示説をやろうということになって、清水先生の説明会に参加してもらい、自分たちで予演会をしたりして、一所懸命取り組んでいました。後で発表者に聞いてみると、口演とは、また違った緊張感があってなかなか好評でしたよ。

中島　示説の発表者も２時間のうち最低１時間はその場にいてほしいということでしたが。

久保田　たいていベターとはりついていた。

中島　それなら質問票はあまり使われてなかった。

久保田　１、２件しかなかったですね。また席をはずせませんわ。あれだけ来てたら。一人で質問者に囲まれたらかなわんからと思って、共同で発表している人はお互い一緒にいるでしょ。それでよけい人が集まっているようになって、質問しているのは一人やけど、答えてるのが仰山おるということに。(笑)

司会　発表者が持って来た資料が切れてしまって、後日郵送してもらうように参加者同士で約束している姿も見受けられました。

久保田　それはいいことですね。示説のいいところは、そうして参加者同士のコミュニケーションがとれるというか、知り合いになれるところでしょうね。予定の時間が過ぎても場所を変えて議論をしている光景も見られましたしね。

司会　示説会場でのトラブルや事故は。

久保田　発表する予定の人が来なくて、「都合により発表中止」の紙を張ったのがありました。それと、発表の時間帯の問題で、発表者とのトラブルがあった。発表時間は２時間と説明しているのに、丸１日張ってもらえると思っていたり、そのままにして帰れるものと思っていた人がかなりありました。

平野　実際、次の人が「時間がきているのに前の分がまだある」と困っていましたし。発表が終わったからといってもういらないとは思わないでしょ、こっちとしては。一所懸命研究した成果を勝手に捨ててもいいのか、とか。本部のほうにそんな紙がかなりたまってましたね。しばらくおいてありましたけれど。

司会　本部の事務としてはどうでした。

久保田　大林ビルに詰めていましたが、大したトラブルはありませんでした。

分科会会場　―口　演―

司会　それでは、口演に移りましょう。

金谷　私は最初大変心細かったんです。うち（東大阪市）が政令市になって次の年に当たったわけでしょ。それで何のことか分からんまま府へ行かせてもらったり、一緒にお話し

させてもらったりしていましたが。

会場長をしているときもまだ何のことか分からんし、他の会場から離れているので心細いし。終わってみて初めて「ああ、こんなんやったんやなあ」と思ったわけです。

うちの会場は、ミドリ十字の庶務係長さんに大変お世話になったこと、また、総会の前々日には近大の大国先生にも来ていただいて、「こうやってしましょう」とかアドバイスしてもらって、セッティングしたのを覚えています。

永橋　ぼくは、それが一番うらやましかった。労働センターの場合は、当日朝一番で入ろうと思ったら、まだ閉まってるんです。そうしたら客も一緒に来て並んでるんです。前日から押さえたかったけど経費の節約もしたいし……。

久保田　近畿の学会のときは、音響設備も会場にあるものは借りてやったんです。そうするとこっちから借りに行かんとだめだし、音が出なかったりで失敗したんです。それで、今回は一切施設のものを使わず全てコンベンションを通してやってもらったんです。

中島　あれは成功でしたね。結構手際よくセットしてくれましたからね。

金谷　ぼくらはそんなに音響設備にくわしくないからね。コンベンションのお嬢さんが結構まめに動いてくれて。

司会　各会場とも進行はスムーズに行きましたか。

金谷　うちはスムーズに行きました。

永橋　あれは川崎さんのところですよ。

川崎　一件発表でややこしいのがあって。6分の発表時間の後、会場からの発言者もあり長くなりました。座長の先生は時計を見ながら「もうぼちぼち。もうぼちぼち」、発表者や会場の発言者は「いや、この一言は言うておかんと」(笑) 結局30分以上になりました。

発表時間は6分間ということでしたが、話し慣れた人は時間を気にせずにしゃべりはる。原稿を棒読みする人だったら6分きっちりで終わるでしょうけど。それで、時間が来たらランプをつけますからといっていたでしょ。私はまた、大きな球で、会場からでもよく分かるようにつくのかなと思ってたんですが、えらく小さな球で。ついても分かるのかなと思いましたね。

永橋　考えてみたら、学会で発表するような内容といったら、一月や二月でできあがるものではなくて、何年もの課程を経て結論を出すようなものでしょ。それを「6、7分で話をしろ」というのも酷なはなしですわ。

川崎　持って来た原稿は最後まで読まんといかんからいうて、ランプがついているのに、なんやかんや言うて必死に読みはる。笑)

また、会場に人があふれたので、中断してイスをどんどん運びこんだりもしました。

金谷　うちは初日にイス、机を薬務課長さんにお願いしてバーと運びこみました。ロビーの長イスもみんな入れて座ってもらった。あのときはミドリ十字の庶務課長さんや府と3政令市の応援の人が一所懸命やってくれはった。あの満員の状況を見てもお客さんが帰りはれへん。しかたがないので「示説会場もあります」という看板をだしたけれど、うれしい悲鳴でしたね。会場長やってて閑古鳥が鳴くようでは情けないし、実行委員の先生にも気をつかいますよ。

司会　ミニシンポをした会場はどうでしたか。

永橋　ミニシンポで困ったのは、前に机とイスを置いて10人シンポジストを座らせてくれといわれたんです。ところが会場が固定席でね。前が非常に狭いんですよ。どうにかむりやり10席作ったんですが、時間になっても来ない人がおりまして、ミニシンポで全員そろってなかったら形にならないでしょ。来てないものはしかたがないので、そのままでやっていたのですが、そのうちになんとか来ていただきましたけれど。

司会　受付の方はうまくいきましたか。

中島　ごたごたするかなあと思ってましたが、うちは抄録集を販売してなかった関係でそうでもなかったです。

永橋　中山さんのところはよく「抄録が切れた切れた」言うて来てその都度うちから持って行きました。資料を入れる封筒が早いこと切れてしまって、「大阪は封筒もくれへん。ケチや」と言われました。(笑) 当日は2000人くらいだろうということで、それくらいしか用意していなかったんですが、2500人くらい来たのでオーバーしたんです。

司会　会場でけが人や病人なんかは。

金谷　うちの会場では女性が二人気分が悪くなって。会場についていてくれた救護班の保健婦さんが看てくれました。

久保田　大阪市の保健婦さんだったと思いますが、あとで礼状が来ていましたね。

金谷　皆さん電車にゆられて地方から出て来てはるでしょ。それに、会場がちょうど一杯になった時でしたので。

中島　日経今橋ビルは順路の関係で危ないなと心配してたんです。信号をあっち渡って、こっち渡ってでしょ。ビルの前には信号もないし、その割りに交通量が多いから。地方の人は危ないのとちがうかなと。

久保田　うちは、「靴ずれしてばんそうこうないか」と言うてきたくらいで。

永橋　地方の人といえば、親から「うちの娘が行きますのでよろしく」て言うてきたのがありました。

川崎　「うちの子が発表しますんでただで入ってよろしいか」いうのもありました。

中島　息子の晴姿を見たいということか。笑)

司会　比較的やりやすかったのはどの会場でしたか。やはり、労働センターでしょうかね。

久保田　あそこは広いし、バタバタする必要がないし。

永橋　一番安定していたのはうちですわ。最初に座長の先生が皆来てますかと確認して、あとは先生方が皆やってくれはったんで、無線で各会場との連絡役をやっていました。

金谷　無線連絡といえば、音が大きいので会場のじゃまになってはと思い、ボリュームを絞っていたら「呼んでるのに」と後でえらいおこられました。

久保田　無線はよかったですね。各会場の入り具合も連絡とれたし、抄録の足りない会場にもすぐに持って行けたし。

金谷　大阪が最初だったんですか。

永橋　あれは、前回の横浜の時に学会本部が無線を置いて各会場と連絡をとっていたんです。

司会　使える半径はどれくらいですか。

永橋　親機だったらかなり飛びますよ。

金谷　よくタクシー無線が入っていましたね。

司会　今年の富山は会場の距離が離れているのでよけい無線が重宝になるでしょうね。

司会　当日座長が変わったところが2ヵ所ほどありましたね。

中島　座長に怒られた会場長もおった。笑)私が一番心配したのは、座長に穴が開かないかということで、その場合は、実行委員の先生にやっていただかないといかんやろうということで、先生方にはある程度会場全体が目に入る所にいてもらわないとあかんし……。

久保田　発表される人に知っておいてもらいたいのは、座長の先生方は、皆さん全国から手弁当で来ていただいている、ということです。準備の段階で事務局としては、来ていただく座長の先生の旅費くらいは出さなあかんものかと思っていたのですが、あちらから、「いやいや、それは結構ですよ」と皆さん言って下さった。学会で座長をすることが一つの名誉だと考えていらっしゃるからでしょうね。ですから勉強もされ、それなりの気構えでいらっしゃる。そのへんのことは恐らく発表者はご存じないでしょう。ですから発表する方もそれなりの気構えで参加して欲しいですね。

司会　皆さん会場長として、他の会場も見て

回られましたか。
久保田　私は、よう行かずでした。
永橋　労働センターと大林ビルは回ったけど、日経には行けなかった。
金谷　私は行けませんでしたが、大阪公衆衛生協会の八木先生や近大の清水先生が各会場回ってくださった。
永橋　阪大の朝倉先生も回っておられた。

自由集会について

司会　自由集会があとで開かれたところがありましたね。
中島　ごたごたというほどのことはなかったんですが、マイク設備なんかをそのまま使わせてくれという話になって、「ごちゃごちゃさわられるのは困りますねん」と言っても、「まあそう言わんと。あとちゃんとしとくから」と言われて。
永橋　あの自由集会というのはあまりマナーがよくないですな。
中島　自由集会を分科会の会場とセットにするのは、経費の節約にもなって、いいと思いますが、なかなか難しいですね。
久保田　本当は、自由集会を学会と切り離して、会場料も向こう持ちで、「自分たちの好きな所でやってください」という具合にしたかったんです。ところが自由集会が開かれだしたのが、前回の大阪の学会なんです。そういう経過があり、切ることができなかった。
川崎　責任者がきっちりしてもらったら、別にどういうことはないんですが。
中島　次の日に、また分科会の会場として使うのに、あっちこっちの配線をいじられて、朝来てみたらマイクがつうじないというんではこっちも困るので、気をつかいました。
久保田　そのへんのことがあって、富山にしろ、宮城にしろ、自由集会は勝手にされるかっこうにして、募集要綱から削ってもいいと思います。

学会総会を終えて

司会　学会終了後の後始末なんかは。
金谷　終わったときは、手際よくいきましたね。
久保田　レンタカーを借りて、荷物を運び出しましたね。
永橋　常時レンタカーを借りておくべきでしたね。足を確保するということで。
司会　一応一通り、順を追って話を進めて来ましたが、何か学会に関与しての感想なりを。
久保田　大阪でやって、成功したのは、行政関係から手を離さないかんといってても、最終的にはやっぱり行政におんぶしたでしょう。しかも、当日の受付やらの応援を全部お願いした。各行政の保健所の人とかに。延べで、200人近い人になりましたね。学会に来られた各府県の部長さんのお話を伺っても、「これだけの職員を動員できるのは、大阪くらいでしょうな」とおっしゃっていた。
中島　もし、受付から何からコンベンションに頼んでいたら、あれだけの対応は無理だったでしょうね。ちょっとしたことでも聞いてこられるから。
久保田　職員の皆さんが、我々の学会だからという気持ちで、積極的に応援して下さいましたから助かりました。経費的にも安あがりでいけたし。
永橋　昼食代の 500円だけでしたからね。
中山　終わってみての感想ですが、最初に久保田係長も言っておられたように、公衆衛生を実際やっているのはほとんどが行政で、そういう意味において、公衆衛生学会も行政主導でやらざるをえなかった。しかも、参加者の80～90%が行政サイドの人間で、あとは学者の先生方がちょこっといらっしゃるくらいだし。ですから、実際に発表する内容といえば、「保健所でこんなことをしました。そして、結果はこうでした」というのがほとんど

でした。地域組織の人が出て来ることはほとんどない。本来なら、公衆衛生学会は行政の保健所などの発表プラス地域組織活動でこんなことがあったとかいうように、地域組織の活動の場をいかに提供していくかというのが筋だと思います。発表するためには学会員にならなければならない。5,000円出さなあかん。しかも演題出すのに12,000円もいる。結局行政サイドの人しか参加できないというところに問題があるのかも知れません。

川崎　うちの場合、学会総会の付随行事である全国政令市衛生部局長会総会の開催当番市としてその準備に追われていたということもあり、演題申し込みが来て、抄録集を発送して、という準備段階では、あまり係わり合いがなかったし、学会の雰囲気もよく分からなかったんですが、9月の中ごろに会場長にきまって、「アー。これはいかん」と弱ってました。しかし、それから学会との係わりがよけい深くなったということもいえます。

永橋　5分いらんかったね。会場長決めたの。

中島　独断と偏見で決まってしまった。

永橋　しかし、会場長を決めたことによって、実行委員の先生方も安心された面もある。

久保田　何から何まで実行委員がせなあかんのか、と思っていらしたでしょうから。

中島　これを機に大阪公衆衛生協会のメンバーを再認識してもらったんではないでしょうか。

永橋　実際終わってみて、「学会とは何ぞやというのがやっと分かった。やるまで一つも分からなかった。「学会て何をするんや」と。横浜で見てたけど、なんや人が集まってわっちゃわっちゃやってるだけで、「これどうやってまとめるんかなあ」と思ってた。金谷さんが、「初めてや初めてや」言うてはるけど全く同じ心境でした。終わって初めて「ああ。これが学会やったんやなあ」と分かりましたね。

司会　皆さん、本日は長時間にわたりありがとうございました。　（昭和60年7月15日）

— 創　業　34　年 —

信頼と実績をモットーに、
情報化社会に対応する、

西村印刷株式会社
西村事務機株式会社

印刷本社　大阪市都島区都島本通5—15—3
電　話　大阪（06）925—6555（代表）

事務機本社　大阪市旭区赤川町2の9の33
電　話　大阪（06）928—2821（代表）